

関西大学工学部 正会員 井 上 雅 夫
 関西大学工学部 学生員 ○小羽根 則 光

1. はじめに

我が国が 21 世紀に超高齢社会を迎えることは間違いなく、これに対応するためには、国民の社会経済属性の構成変化に社会基盤施設を適合させていかなければならない。しかし、超高齢社会は、我々がかつて経験したことの無いものであり、未知の部分が多いのが現状である。海岸についても、高齢者に余暇や憩い、くつろぎの場を提供することが求められている。

本研究では、こうした現状をふまえ、高齢社会における海岸整備に際しての基本的な指針を得ることを目的として、アンケートによる意識調査を行った。

2. 調査の概要

アンケート調査は、海岸に面した阪南市と面していない吹田市の高齢者、また、高齢者と比較するため、青年層として 20 代の学生の合わせて 3 グループを対象として行った。なお、表一に調査対象者の年齢および性別構成を示す。

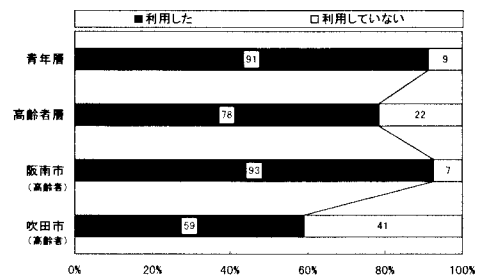
3. 調査結果とその考察

図一には、ここ 2・3 年の海岸利用状況を示した。これによると、高齢者層の海岸利用率は 78%、青年層のものは 91%であり、高齢者層は青年層よりも、利用率は劣ものの、ほとんどの人が海岸を利用していることがわかる。また、高齢者層を地域別にみると、阪南市では 93%、吹田市では 59%の高齢者が海岸を利用している。このことから、高齢者の海岸利用状況には、居住地から海岸までの距離が大きく影響しているものと考えられ、高齢者にとっては、海岸へのアクセスがきわめて重要であると思われる。

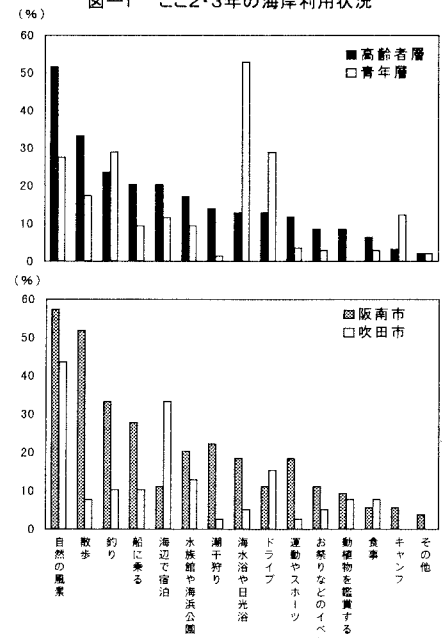
図二には、海岸に出かけた目的を示した。これによると、高齢者層では自然の風景を楽しむが 52%で最も多く、次に散歩の 33%、釣りが 24%の順になっている。これは、高齢者は自然の風景を眺めて、精神的なリラックスを望んでいるためと考えられる。このことから、多くの高齢者が海岸で楽しむためには、海岸を美しくして、何か興味のもてるものをつくっていく必要があろう。また、吹田市の高齢者は、海岸には宿泊を伴う旅行で行くという意識が強いようである。したがって、海岸をもっと気軽に楽しめるように交通アクセスを充実させる必要があろう。また、阪南市の高齢者は、吹田市のものに比べ、散歩、運動やスポーツなどが多く、このことは、阪南市における高齢者の海岸利用は日常的なものになっているといえよう。

表一 調査対象者の年齢および性別構成

年齢層	有効数(人)	男性(人)	女性(人)
青年層(19~29歳)	138	124	14
高齢者層(60歳以上)	93	68	25
(阪南市)	(54)	(42)	(12)
(吹田市)	(39)	(26)	(13)
合計(配布283人)	231	(回収率 81.6%)	



図一 ここ2・3年の海岸利用状況



図二 海岸に出かけた目的
(複数回答)

しかし、一般に多くの高齢者にとっては、海岸利用は非日常的事務的なことと思われるので、今後、多くの高齢者が海岸で楽しむためには、海岸に面していない地域の高齢者の意見も取り入れていくことが重要である。

図-3 には、現在の海岸に対する興味の度合いを示した。

これによると、興味がある人の割合は、青年層で 32%、高齢者層で 68%であり、高齢者層の方が海岸に対して関心をもっていることがわかる。このことは、地域性の違いもあまりなく、高齢者が海岸に対してかなりの関心をもっていることは興味深い。

図-4 には、現在の海岸整備に対する満足度を示した。これによると、満足している人の割合は、青年層で 31%、高齢者層で 16%である。また、図-3 に示した海岸に対する興味の度合いと比べると、青年層では 32%が興味をもっているのに対し、31%の人が満足している。一方、高齢者層では、68%が興味をもっているのに対し、16%の人しか満足していない。

このことは、現在の海岸整備が青年層を対象として行われていることを示しており、これからの超高齢社会に向けては、高齢者を考慮した海岸整備を行っていかねばならないことがわかる。具体的には、海岸へのアクセスを充実させるとともに、青年層だけでなく、中高年層も楽しめるようなレクリエーション施設などが必要であろう。

図-5 には、高齢者の現在の海岸整備に対する満足度を興味の度合いごとに示した。これによると、興味あり、まあまあ興味ありと答え、少しでも海岸に対して関心のある人の 60%程度の高齢者が現在の海岸整備には満足していない。このことも、前述したように現在の海岸整備が海水浴をはじめとする若者志向のマリーンスポーツに焦点が向けられ、高齢者を対象とした海岸整備が立ち後れていることを示している。

図-6 には、海岸整備事業において、必要と思われるレクリエーション施設を示した。これによると、高齢者層・青年層のいずれも海中・海浜公園や釣り場が多い。これは、利用者が海岸に自然とのふれあいを求めて来るためと考えられる。また、高齢者層では、水辺の博物館・水族館やゲートボールやテニスのコート、鉄棒などの簡単なスポーツ施設、イベント広場などを青年層よりも多く挙げている。これは、水辺の博物館を除いて、必ずしも海岸でなければならないものではない。しかし、これらのほとんどは、健康づくりに役立つものなどであり、それらが海岸に求められていることは大変興味深いことである。このようなことから、海岸におけるレクリエーション施設としては、高齢者にとっては活発なスポーツ施設よりも、自然とふれあうことができ、のんびりと時間を過ごすことのできるものが求められているようである。さらに、今後、人生 80 年時代の到来とともに、元気で長生きすることが望まれているので、健康づくりのできる施設なども必要であろう。

最後に本調査に際し、種々お世話になった吹田市および阪南市の関係各位に深謝の意を表す。

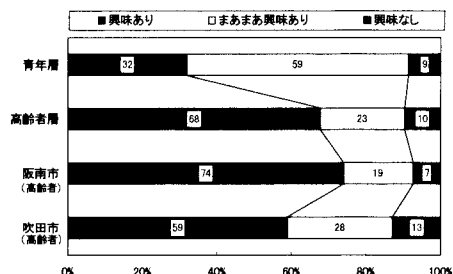


図-3 海岸に対する興味の度合い

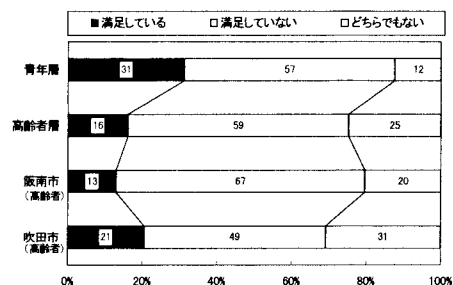


図-4 現在の海岸整備の満足度

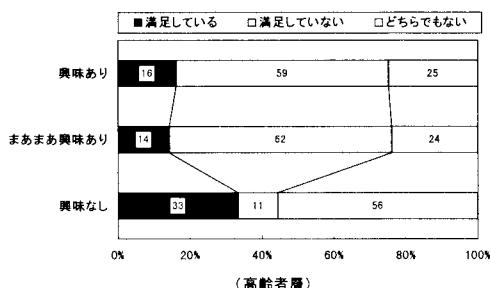


図-5 興味の度合いごとに見た海岸整備に対する満足度

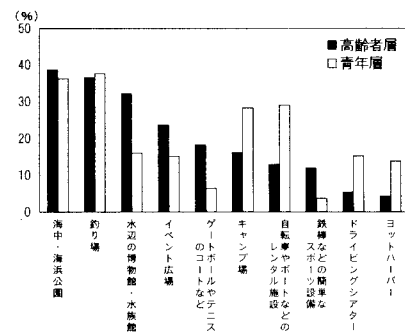


図-6 レクリエーション施設の整備
(複数回答)